

平成25年10月27日（日）に愛媛県武道館開館10周年記念・愛媛県体育協会創立90周年記念と銘打って、大相撲巡業松山場所を5団体（愛媛県相撲連盟、愛媛県、愛媛県スポーツ振興事業団、愛媛県体育協会、愛媛新聞社）が実行委員会を構成し、愛媛県武道館で開催しました。

松山市では15年ぶりの開催となる大相撲巡業。当日は天気にも恵まれ、開場前からたくさんのお客様が愛媛県武道館の前に長蛇の列をつくり、開場を待ちわびていました。



正門前の石垣の上には、のぼり旗が風になびき、開場時には正門前で呼び出しによる触れ太鼓が打たれ、大相撲巡業開催の雰囲気を感じました。

この巡業には、序二段以上の力士約120人が参加しましたが、開場する前から番付下位の者から順番に稽古を行い、お客様が中に入ってくる8時頃には関取衆の稽古時間となります。

稽古は、「申し合い」と呼ばれる勝ち残り形式で行われ、平均体重150kgを越える大男達の激しいぶつかり合いに来場者から大きな歓声が上がっていました。

申し合いの後、稽古の仕上げとして受け手の胸にぶつかり、連続で何十回も押しを繰り返す「ぶつかり稽古」を行います。



横綱日馬富士関が、愛媛県西予市出身の片男波親方（元関脇玉春日）の弟子、玉飛鳥関を特別に指名して、泥だらけになるまでぶつかり稽古で鍛えていました。横綱も「サービス！」としきりに言っていました。相撲界では「かわいがり」と言い、強くなるように期待を込めて行うもので「いじめ」ではありません。

公開稽古の後には、大山親方による相撲の歴史と

所作の説明、相撲体操の実演解説など今までになかった催しもありました。玄関ホールで行われた握手会も途切れることなく、人気力士が代わる代わるに現れて、笑顔で対応しており、ファンに対するサービスも15年前の巡業と比べると格段に向上しているように思いました。

ちびっこ力士と関取の稽古、初っ切り、相撲甚句（歌）などで盛り上がったあとは、十両土俵入り、幕内土俵入り、横綱土俵入りと行われました。

取り組みも番付が上がるごとに重厚さを増していき、三役格になってくると、ぶつかり合う音が違い、人間と人間がぶつかり合う「バスン！」という鈍い音が館内に響きわたると5千人の来場者から、大きなよめきが起こっていました。



最後の一番は、横綱同士の一騎打ち。白鵬が立ち合いのカチ上げで日馬富士を土俵下まで吹っ飛ばし、第一人者としての貫禄を示しました。

当日お越し頂いたお客様は、直接見る力士のカラダの大きさや激しくぶつかり合う音など、テレビではわからない生の迫力に満足して武道館を後にしていました。

